

Minami Kyushu University Syllabus										
シラバス年度	2025年度	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		環境園芸学科／子ども教育学科		
科目名称	多文化共生論						授業形態		講義	
科目コード	121400	単位数	2単位	配当学年	1	実務経験教員			アクティブ ラーニング	○
担当教員名	林田 康子								ICT活 用	
授業概要	この授業は、社会学の視点から、現代社会がどのような社会であるのかを学び、今後の社会のあり方を考えていくことを目指した授業である。授業で取り上げるテーマは、家族やジェンダー、貧困、グローバリゼーションなどである。これらに関する社会現象や社会問題を手がかりに、われわれの行動や生活と社会的状況との関係を考える。われわれの行動や生活がどのような社会的状況に影響を受けているのかということを理解したうえで、現代社会を捉え、社会問題の解決や今後の社会の方向性を探る。									
関連する科目										
授業の進め方 と方法	毎回の授業において、アクティブラーニング型の授業を導入する。基本的には資料を使用した講義の形態をとるが、授業中は随時学生に質問をし、対話型の授業を行う。また随時小テストを行い、理解を促す。									
授業計画 【第1回】	第1回 序論 1 社会学の定義と分析方法について学ぶ。									
授業計画 【第2回】	第2回 序論 2 社会調査、現代社会の時代区分について学ぶ。									
授業計画 【第3回】	第3回 家族の変化 1 晩婚化・未婚化、家族の多様化について学ぶ。									
授業計画 【第4回】	第4回 家族の変化 2 少子化の現状とその要因について学ぶ。									
授業計画 【第5回】	第5回 ジェンダーとセクシュアリティ 1 教育とジェンダー、労働とジェンダーについて学ぶ。									
授業計画 【第6回】	第6回 ジェンダーとセクシュアリティ 2 政治とジェンダー、近代社会の編成原理と公共圏について学ぶ。									
授業計画 【第7回】	第7回 ジェンダーとセクシュアリティ 3 セクシュアリティとアイデンティティ、LGBT、結婚の多様化について学ぶ。									
授業計画 【第8回】	第8回 貧困 1 貧困の概念、貧困の女性化について学ぶ。									
授業計画 【第9回】	第9回 貧困 2 貧困の原因と潜在的貧困層について学ぶ。									
授業計画 【第10回】	第10回 貧困 3 貧困と社会的排除について学ぶ。									

授業計画 【第11回】	第11回 地域社会の変化 1 都市・農村の変化、外国人労働者の状況について学ぶ。
授業計画 【第12回】	第12回 地域社会の変化 2 グリーンツーリズム、消費農村論について学ぶ。
授業計画 【第13回】	第13回 グローバリゼーションと多文化社会 1 グローバリゼーションの特徴について学ぶ。
授業計画 【第14回】	第14回 グローバリゼーションと多文化社会 2 エスニシティ、国民国家、難民・移民について学ぶ。
授業計画 【第15回】	第15回 グローバリゼーションと多文化社会 3 多文化共生へ向けての課題、日本の政策と現状について学び、講義全体を振り返る。
授業の到達目標	1. 現代社会において、どのような社会現象や社会問題が発生しているのか理解できるようになる。【知識・理解】 2. 社会現象や社会問題を発生させる社会的状況（要因）を理解できるようになる。【知識・理解】 3. 社会学的な概念や理論を理解できるようになる。【知識・理解】 4. 自分が出会うさまざまな家族や個人の行動や生活の仕方を社会学的な視点から分析できるようになる。【汎用的技能】 5. 家族生活・社会生活・社会問題を改善する方向性を示すことができる。【態度・志向性】
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(1)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2)
授業時間外学習【予習】	授業中に次の授業範囲を示すので、資料を読んで概要をつかみ、わからない点を整理しておく。（約1時間） 参考文献を読み、テーマや社会学の発想について理解を進めておく。（約1時間）
授業時間外学習【復習】	随時小テストを実施するので、毎回授業内容を振り返り、要点を整理しておく。（約1時間） 授業内容を自分の経験や身近な事例と照らし合わせて考えてみる。（約1時間）
課題に対する フィードバック	小テストは評価後、返却および解説をする。 定期試験は試験後に解説する。
評価方法・基準	以下の項目に基づいて評価する。 1. 定期試験（70点） 2. 小テスト（30点）
テキスト	使用しない。資料用のプリントを配付する。
参考書	アンソニー・ギデンズ、2009、『社会学』而立書房。 長谷川公一ら、2019、『社会学』有斐閣。
備考	